IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2012年10月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

編修広報委員会の新たな取り組みについて

Improvement of the Editorial Committee Activities

電気学会 産業応用部門 編修広報委員会委員長

大山 和伸（ダイキン工業）

Kazunobu Ohyama (Daikin Industries)

Chairperson of Editorial Committee, Industry Applications Society, IEEJ

今年6月より2年間、D部門副部門長を務めることになりました。今年度は部門編修広報委員会の委員長を担当します。

部門会員の皆様が必要とされる情報をいち早く提供することを目標にして、2004年10月にD部門ニュースレターが誕生しました。当時の部門編修委員会斎藤委員長の巻頭言には、部門改革の一環として「部門誌を純粋論文誌とする」ことや、「論文以外の記事をニュースレターとホームページに掲載する」こと、さらに「速報性を目的とした記事が、部門誌発行3ヶ月前の原稿締め切りという関係から時代と共に意義が薄れてきた」などの記述があります。創刊から8年経過し、部門会員の皆様はニュースレターと部門ホームページの速報性や企画に満足していますか？

来年1月には、D部門ニュースレター第100号「D部門25周年記念号」を発行します。加えて、今年度、編修広報委員会は部門の伝統である「常に新しい部門のあり方について検討、即実行」にこだわり、ニュースレターと部門ホームページがより良い情報源となるよう、以下を重点に取り組みます。編修広報委員会は電気学会の他の委員会に比べて、若い人達が活動を支えている委員会です。本ニュースレターの最終ページに委員会名簿があります。さらなる改善など、どのような内容でも結構ですので、身近な委員に要望を伝えてくださることを期待しています。

ニュースレターの改善：

速報性にこだわる記事と企画・内容にこだわる記事、それぞれに適した編修方法を検討します。

(1) 速報性にこだわる記事：部門会員の皆様にとって有用な記事の一つに、産業応用フォーラムの案内があります。現在、案内記事の原稿締め切りは、ニュースレター発行2ヶ月前で、8年前の原稿締め切り3ヶ月前に対して十分短縮できたとは言えません。その結果、会員の皆様への案内が開催日直前になってしまうなどの支障をきたすことがあります。今年度は原稿締め切り1ヶ月前（リードタ

イム半減）を目標にして、産業応用フォーラムを主催する技術委員会や研究調査運営委員会と連携して、情報をいち早く提供するしくみを構築していきます。

(2) 企画・内容にこだわる記事：昨年5月号からの論文誌電子ジャーナル化に伴い、ニュースレターが部門会員の皆様の手元に届く唯一の部門情報誌となりました。印刷物の良さを活かすためには、一番目立つ表紙ページを魅力あるものにしなければなりません。部門大会の案内など部門会員全員が興味を持って読む記事に加えて、巻頭言を「部門会員が読んでインスパイアされる記事」にすることを目標に再企画します。さらに、技術開発レポートや資料コーナーについても、「部門会員が読んで仕事に役立つ記事」を目標にして、電気学会ならではの視点で解説するよう努力します。

英文広報の充実：

今年度の部門活動方針として、河村部門長が掲げる4つの目標のひとつに、「部門のグローバル化を推進し、国内外の情報提供や最新情報交換の場を設け、部門会員としてのメリットを感じていただけるよう各種工夫をする」があります。現在、英文ホームページは、リンク先に日本語情報しか無いなどの改善すべき課題がたくさんあります。また、本年7月にIEEJ Journal of Industry Applications（電気学会英文論文誌D）が発行されました。英文論文誌の情報や目次をニュースレターに掲載するなど、各種工夫を進めます。

最後に、電気学会の他の部門においても、ニュースレターが毎月発行されるようになりました。D部門の伝統である「常に新しい部門のあり方について検討、即実行」にこだわり、攻めの広報を目指して、ニュースレターとホームページがより良い情報源となるよう、編修広報委員会一丸となって改善に取り組みますので、ご協力よろしくお願い致します。